

番号	2	事業名	雪崩対策	市町村名	飯山市	路河川名	倉本	箇所名(ふりがな)	倉本(くらもと)	
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	○当該地は地すべり地形が発達しておりくわえて豪雪地帯であることから、雪崩予防柵が施工されていた。 ○平成18年3月に融雪期の大雨に伴い、幅約30m、長さ約120mにわたり地すべりが発生した。 ○この地すべりにより、雪崩予防柵4基が被災し、崩壊土砂とともに滑落した。 ○平成18年度より地すべりの対策事業が実施され、これにあわせて平成19年度から雪崩対策事業を実施した。					②事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化	事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい)		評価	
							○仮設道路及び仮設モノレールの設置により、低草木などの除去を行ったが現在では植生が回復している。		B	
事業目的	○地すべりの発生により、雪崩予防柵の被災したことで雪崩予防の効果が発揮できなくなりました。 また、地すべりにより雪崩発生の危険性も増大した。 ○今後の積雪によって、被害が拡大するおそれがあるため、被災した雪崩予防柵の復旧とあわせて地すべり内の雪崩対策を施工することで、直下の人家22戸、市道を保全する。					③施設の維持管理状況	施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切)		評価	
							○維持管理は、北信建設事務所で行っており、パトロールを適宜実施している。 ○地元地区との連携を密に図り、異常発生時には迅速に連絡が入る体制を整備している。		B	
事業概要	当初工期	H19~H22	費用対効果(当初時)	6.95	事業費(千円)	財源内訳(千円)				
	最終工期	H19~H24	費用対効果(評価時)	4.35	上段:当初/下段:最終	国庫	その他	県債	一般財源	
	当初計画内容(主な工種)	雪崩予防柵(Λ型) N=40基(L=170m)			150,000	75,000	67,500	7,500	地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い)	
	最終事業実績(主な工種)	雪崩予防柵(三角フェンス型) L=218.1m			239,744	119,872	107,885	11,987	評価	
事業期間の延長、短縮理由と分析	○事業費の見直しにより、事業期間を延長した。					④地域住民等の評価	○地域住民(地元区)の生活において、安心感の向上が実感されている。 ○斜面の雪を止め、安全が確保されていることについて実感されている。			
事業費(予算)の増加、縮減理由と分析	○当初、雪崩予防柵はコンクリート基礎を用いて直線的に設置することとしていたが、現地精査の結果、滑落崖の起伏や幅などの現地形状に合わせて地形改変を行わないよう雪崩予防柵を設置する必要があり、これに伴い雪崩予防柵の形式を変更するとともに設置延長を増とした。 ○現地精査の結果、地すべりによる地形の変化、及び裸地の拡大に伴い雪崩対策範囲を広げ、最上段と最下段に雪崩予防柵を追加した。 ○形式の変更と設置延長の増に伴い事業費が増となった。						改善措置の必要性	○現時点で改善措置の必要性は生じていない。		
①事業効果の発現状況	事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成 D:達成したとはいえない)					直接的効果 (定量的・定性的)	B	今後の取り組み及び同種事業への活用と課題		
	○雪崩災害の防止 ・人家 22戸 ・市道 490m ・事業完了後、雪崩の発生はない。							○ 施工にあたり、滑落崖の起伏や幅などの現地形状に合わせ設置延長が増となった。雪崩対策事業は山間部に施工することがほとんどであるため、起伏や幅をある程度想定して事業計画を立てることが必要である。 ○ 工事開始前には事業説明や工事説明会をしているが、工事完了後の完成説明会は行っていない。特に雪崩対策事業は事業例も少ないため、完成説明会を行い、対策工法の効果や原理を理解していただくと共に、異常の発見にもつながる取り組みを併せて行うことが望まれる。		
	間接的効果 (定量的・定性的) ※事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況					所管課意見	○雪崩対策事業の実施により、雪崩の発生が抑えられていることか、事業の目的は達成されている。		県の自己評価	
○生活環境・自然環境への影響 ・地区住民の安心感の向上 ・雪崩発生時の市道通行止めによる孤立集落の解消							A			
					技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。				